

朝日小学生新聞 2011年（平成23年）1月1日付け

\*\*うさぎ年にジャンプ2011 ぴよん\*\*

学校で愛情たっぷりに飼われているウサギや、南の島でひっそり暮らす野生ウサギ、生態などの豆知識……。今年の干支の主役たちの世界に、ピョ〜ンと跳んでいきましょう！

@世話、楽しく！

学校でウサギを飼っていますか？掃除やえさやりを毎日欠かさず続けないと、小屋はよごれ、ウサギたちは病気になってしまいます。上手に世話をしている学校を紹介します。

#### きちっとルール 埼玉県久喜市青毛小

埼玉県久喜市青毛小は、長くウサギを飼い続けています。今は、親2匹と子ども3匹の計5匹です。

青毛小は飼育当番制は地域にも知られています。平日は毎日、朝と帰りは5、6年生の飼育委員が、昼休みは3～6年の子どもたちが交代でえさや水やりをしています。

土・日曜は登校班に分かれて、それぞれ最低三世帯の親子と先生が午前中に、飼育小屋の大掃除をします。土日の当番表はPTAが新学年が始まる前につくって、毎年、各家庭に配布します。全校生は440人。一世帯当たり、年2、3回は当番が回ってくるそうです。長期休暇の当番も決めてあります。

いつからこうしたルールができたのか、今いる先生たちはよく知りません。6年生の女の子の母親の上田三千代さんは「今、高校1年の娘が小学校に在学していることにはありました」と記憶しています。そのころは、今と同じ飼育小屋に20～30匹はいて小屋の掃除もたいへんだったといいます。

今は、久喜市が派遣する獣医師さんが子どもを産まない手術をしてくれるため、ウサギの数がやたら増える心配もないそうです。

年2、3回回ってくる掃除当番には、小学生とその弟や妹もえさやりを楽しみにやってきます。12月のある土曜日の朝8時過ぎ、6人の6年、4年、2年の男子と、そのきょうだいの男の子と女の子の計2人、子どもの母親3人と堀江裕子先生が集まりました。

4年生の男の子は「掃除はあんまり好きじゃないけど、ウサギにさわれるのが楽しい」といいます。

先生とお母さんは砂場でウサギのフンをふるって取り除くわきで、子どもたちは集まってきたウサギたちにニンジンやキャベツの葉などをやっていました。

教頭の青木恵一先生は「みんなで世話をしているせいか動物への思いやりの心が育ち、卒業しても飼育小屋をのぞきにくる中学生もいます。

#### 掃除を工夫で短めに 神奈川県川崎市野川小

全校生934人の神奈川県川崎市野川小は、広さ約27平方メートルの飼育小屋でウサギのめす3匹、チャボ2羽を飼っています。

世話をするのは5、6年生の飼育委員会。土日は先生が交代でえさやりなどをします。平日の中休み

は毎日7、8人の委員が交代で小屋の掃除とえさやりをします。「委員会は人気で毎年40人くらいは入ってきます」と飼育委員会の顧問の一人の高橋信子先生。「ウサギの尿とフンが混じると、掃除がたいへんです。ウサギは小屋の決まった場所に尿をするようなので、そこに段ボールを置いたら、段ボールが尿を吸うので掃除が楽になりました」

飼育委員がフンやおしっこでよごれた段ボールを毎日取りかえ、転がっているフンをはき集めます。「飼育委員になったのは生き物が好きだから。最初はフンがくさかったけど、なれてくるとくさくないよ」と5年の男の子はいいます。

ウサギは相性のいい2匹は同じ部屋に、悪い1匹は別の部屋にしています。「動物が子どもたちの心にはいい影響をおよぼすためにも、数を増やすのではなく快適な環境で飼うことが大事だと思っています」と高橋先生は話していました。

(以上)